

# 高宮廃寺

—寝屋川市大字高宮—

発掘調査概要報告Ⅱ

1981・3

寝屋川市教育委員会

# 高宮廃寺

—寝屋川市大字高宮—

発掘調査概要報告Ⅱ

1981・3

寝屋川市教育委員会

## 序 文

本市の東部丘陵地に位置する高宮廃寺跡は、昭和55年5月13日付で国史跡に指定されましたが、今回指定地の西側に隣接する地域を、昭和56年2月2日より同年3月31日まで、発掘調査を行いました。

この地は、高宮廃寺の氏神である大社御祖神社の旧の社殿があったと伝承されている地であります。

古代の氏族は、一族結合の象徴として、また仏教による一族の隆昌をねがって氏寺造営をさかんに行いました。そして、從来から精神的伝統にもとづく氏神をその氏寺の近くに並置しました。その類例は、枚方市の特別史跡百濟寺跡・百濟王神社に見ることができます。

今回の調査で、高宮氏族の屋敷跡地と推定される掘立柱建物跡や神社のものと推定される多数の柱穴を発見しました。これらは白鳳時代創建の高宮廃寺と同時代あるいはそれ以前のものと推定され、以後神社跡については何回も建て替えられた跡がみられます。また、神社跡の中心軸が条里制の遺構の基本線と一致している状況が確認出来ました。

今後、隣接地全体が発掘されるならば、高宮遺跡及び高宮廃寺の全貌が明らかにされるであります。

調査の実施にあたり、ご協力いただきました土地所有者の方々をはじめ地元の協力者及び、ご指導いただきました大阪府教育委員会ならびに関係各氏に心よりお礼を申し上げ、直接調査に従事していただきました各氏に対しまして、深く感謝の意を表すると共に、今後とも本市の文化財保護に一層のご指導ご協力を賜わりますようお願いを申し上げる次第であります。

昭和56年3月

寝屋川市教育委員会

教育長 坂 中 横

## 例　　言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が、昭和55年度国庫補助（総額 5,000,000 円、補助率一国 50 %、府 25 %）を得て実施した寝屋川市大字高宮所在の史跡高宮魔寺跡発掘調査の調査概要報告書Ⅱである。
2. 調査は、昭和56年 2月 2日に着手し、昭和56年 3月31日に完了した。
3. 発掘調査は、塩山則之（教育委員会社会教育課嘱託）を担当者とし、補助員として、田頭澄・小林昇があたった。
4. 本書の作成については、塩山則之が執筆、実則・トレースは、塩山・平野敦子・福田範子が、写真撮影は塩山がそれぞれ担当した。
5. 発掘調査の進行・報告書の作成などについては、大阪府教育委員会文化財保護課記念物係長井藤徹氏、四天王寺女子大学藤澤一夫氏、寝屋川市文化財保護審議会委員瀬川芳則氏、財団法人枚方市文化財研究調査会の各氏に指導助言を得たとともに、調査に際して心よく大切な土地を提供していただいた土地所有者の倉内道子・福岡留次郎・福岡いし子の各氏、また、地元高宮自治会、大杜御祖神社氏子をはじめ多くの人々の協力を得た。記して厚く感謝の意を表します。

## 目 次

### 序 文

### 例 言

I 位置と環境 .....	1
II 調査に至る経過 .....	2
III 調査の概要 .....	4
IV 遺 物 .....	7
V まとめ .....	8

### 図 版

## I 位置と環境

高宮廃寺跡は、寝屋川市大字高宮316番地にあり、生駒山系の西側に派生した洪積層の寝屋川市東部丘陵南端の標高28m前後に位置している。

寺跡の調査は、過去に数回実施され、その都度重要な遺物・遺構が検出されている。特に、昭和54年12月14日から昭和55年3月31日まで寝屋川市教育委員会が実施した高宮廃寺範囲確認調査では、講堂跡、金堂跡、東回廊跡、北回廊跡、回廊北西隅、中門跡の規模あるいは位置関係を明確にし、その結果昭和55年5月13日付をもって、国の史跡に指定を受けるに至った。

高宮廃寺跡を含む高宮遺跡には、縄文時代以来人々の生活が営まれていた。昭和55年度に宅地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査によって、縄文中期の土器や石獣、石錐、石小刃や飛鳥・白鳳期の掘立柱建物跡5棟分及び柵列跡、堅穴式住居跡5棟分を検出した。

この丘陵の周辺には、楠根川右岸の縄文時代後期の小路遺跡、高地性集落として有名な弥生時代中期～後期の太秦遺跡があり、太秦遺跡では、ウルム期のナイフ形石器も採集されている。

また、トノ山古墳、太秦1号墳を含む太秦古墳群、寝屋古墳や江戸時代『河内名所図会』に「八十塚」として紹介された打上古墳群などの古墳群、また、奈良時代の集落跡である打上遺跡、国の史跡に指定されている石の宝殿古墳なども周辺に分布している。古代寺院跡としては、寝屋川市太秦廃寺跡・高柳廃寺跡・四條畷市讃良廃寺跡・正法寺跡などがある。高宮廃寺跡には、延喜式内社大社御祖神社、またこの神社の西約200mには、江戸時代には讃良郡の一の宮とされた延喜式内社高宮神社が鎮座するなど、高宮遺跡の周辺には数多くの遺跡等の分布がみられる。

## II 調査に至る経過

高宮廃寺跡は、昭和28年大阪府教育委員会による東塔跡の発掘調査が実施され、塔基壇・塔心礎を検出し、出土の複弁八葉蓮華文瓦等から廃寺の創建年代が白鳳時代に遡ることが判明した。また昭和54年度寝屋川市教育委員会による寺域範囲確認調査では金堂跡・講堂跡・中門跡・回廊跡のそれぞれの遺構を検出し、それぞれの規模及び位置関係を明らかにすることができた。出土瓦等からみて、当廃寺は白鳳時代に創建されたのち平安時代に一時廃絶し、鎌倉・室町時代に再び神宮寺としての法灯がともされたことを確認し、こうした経過ののち、昭和55年5月13日付をもって国史跡に指定されるに至っている。

昭和55年度には、高宮廃寺跡の西側隣接地で宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。その結果縄文時代の遺物や遺構を発見し、さらに一辺約1メートルの巨大な平面形をもつ柱穴が9カ所並ぶ2間×3間の掘立柱建物跡をはじめとする掘立柱建物跡5棟や、この掘立柱建物跡を取り囲む柵列、あるいは竪穴式住居5棟分を検出したもので、これらはいずれもこの高宮の丘陵上に位置する複合遺跡のもつ重要性が指摘されるゆえんである。

現在、高宮廃寺跡の西塔跡と推定される地に延喜式内社大社御祖神社が鎮座している。そして当廃寺の西北には旧社殿地と伝承されて、まわりの畠地より一段小高くなった一画がある。このため寝屋川市教育委員会は、高宮廃寺跡の西への広がりを確認するとともに、旧社殿伝承地を調査することにより、古代における氏寺・氏神の相關関係及び、この氏寺氏神に直接かかわっていた古代氏族居住地と氏寺造営地との関係などを考古学的に解明するために、今回の発掘調査を実施したものである。

## 調査組織

団長　坂中　僕（寝屋川市教育委員会教育長）  
副団長　樺上　勇（寝屋川市教育委員会教育次長）  
　　鈴木　隆（寝屋川市教育委員会社会教育部部長）  
　　青木　知年男（寝屋川市教育委員会学校教育部部長）  
調査顧問　藤澤　一夫（四天王寺女子大学教授）  
　　瀬川　芳則（寝屋川市文化財保護審議会委員）  
調査担当者　塩山　則之（寝屋川市教育委員会社会教育課嘱託）  
調査補助員　田頭　澄・小林　昇

### 調査事務局

事務局長　藤野　明彦（寝屋川市教育委員会社会教育課課長）  
総務担当　高田　稔（寝屋川市教育委員会社会教育課課長代理）  
庶務担当　南　邦男（寝屋川市教育委員会社会教育課成人係長）  
経理担当　秋山　英幸（寝屋川市教育委員会社会教育課書記）

### III 調査の概要

今回の調査は、史跡「高宮廃寺跡」の西に隣接する大字高宮305・306・307番地の畠地及び竹藪について、高宮廃寺跡の西へのひろがりと、延喜式内社高宮大社御祖神社の旧社殿伝承地（307番地）を調査することにより、高宮廃寺と高宮大社御祖神社の氏寺・氏神の相関関係を調査することを目的として実施した。

調査は、調査地各地区にそれぞれ東西・南北方向のトレンチを設定して実施した。

307番地（畠地）には、東西方向に2箇所のトレンチ（Aトレンチ・Bトレンチ）南北方向に2箇所のトレンチ（第1トレンチ・第2トレンチ）をそれぞれ設定した。

306番地（畠地）には、東西方向に2箇所のトレンチ（Cトレンチ・Dトレンチ）南北方向に2箇所のトレンチ（第3トレンチ・第4トレンチ）を設定した。

305番地（竹藪）には、北から第5トレンチ・第6トレンチの2箇所のトレンチを設定した。

調査方針としては、設定したトレンチ内での遺構の検出状況にもとづいてトレンチを拡大・結合していくことにした。

遺構全般の傾向としては、耕土・灰褐色砂質土層・地山となっており、灰褐色砂質土層はごく薄く、耕土表面から地山までは約20～30cmであった。なお、第3トレンチ・第4トレンチ・Cトレンチ・Dトレンチにおいては、耕土の下はすぐ地山となっていた。

延喜式内社高宮大社御祖神社の旧社殿伝承地にあたる307番地に設定した第1トレンチ・第2トレンチ・Aトレンチ・Bトレンチにおいて、多数の柱穴を検出したためそれぞれのトレンチを結合・拡大して調査を実施した。

第2トレンチ北部で、掘立柱掘りかた（以下柱穴と称する）を5箇所検出した（柱穴1～柱穴5）。これらの柱穴は、北西から南東方向に並ぶものである。

第3トレンチの中央部及び北部において、柱穴6・柱穴7・柱穴8・柱穴13を検出した。

第4トレンチより、柱穴11・柱穴15・柱穴16・柱穴17・柱穴19・柱穴20を検出した。

C レンチより、柱穴 14 を検出した。

第 5 レンチより、柱穴 23・柱穴 24・柱穴 25・柱穴 26 を検出した。

## 遺構

### 1 号掘立柱建物跡

307 番地の第 1・第 2 レンチ及び、A・B レンチを結合した中央部より検出。2 間 × 3 間の東西棟である。桁行 5.7 m、梁行 4.2 m、柱穴掘り方は径 30 cm ~ 50 cm のほぼ円形で、深さ 10 cm ~ 50 cm である。柱穴内からはほとんど遺物を出土せず、わずかに小片の土師器が出土した。

### 2 号掘立柱建物跡

307 番地の各レンチ結合部より検出。(3 間 + α) × (1 間 + α) のものである。棟方向は N 41° E と、南北方位に対して大きくふれている。柱間は桁行 2 m、梁行 2.7 m、掘り方は一辺 30 cm ~ 50 cm の方形で、深さ 25 cm ~ 40 cm である。柱穴内からはほとんど遺物を出土していない。

### 3 号掘立柱建物跡

307 番地の各レンチ結合部より検出。2 号掘立柱建物跡と重複しており、(3 間 + α) × (1 間 + α) となる。棟方向は N 40° E と、2 号掘立柱建物跡と同様に、南北方位に対して大きくふれている。柱間は桁行 2 m、梁行 2.3 m、掘り方は一辺 30 cm ~ 50 cm の方形で、深さ 30 cm ~ 40 cm である。

### 4 号掘立柱建物跡

この掘立柱建物跡については、今回の調査は調査範囲が狭く、かつレンチによる調査であったために、全体の規模はまだ不明の点を多くのこしているが、現在確認されている柱穴は 26 個で、建物の長辺 20 m 以上、単辺 15 m 以上で、棟の示す方向は N 52° W とやはり南北方位に対して大きくふれている。

各柱穴において、切り合い関係をもつ柱穴もあり、時期も数時期に亘るもので、数次の建て替えが行われている。なお、それぞれの柱穴のセット関係及び、この

建物の性格については、今後の調査を通じて解明できるものと考えている。  
 柱穴内からの遺物の出土は少なく、かつ小片であるために図化することは困難である。柱穴の規模等についての概要は、次の表に示すとおりとなった。

柱穴番号	規 模 (m)	深 さ (m)	備 考
1	1.0×1.0	0.53	
2	1.6×0.9	0.14	
3	1.4×1.1	0.72	
4	1.2×1.3	0.26	
5	(0.9×α) × (1+α)	0.69+α	
6	1.2×1.2	0.24	柱穴 7 と切り合い
7	1.2×1.2	0.75	柱穴 6 と切り合い
8	1.4×1.1	0.74	
9	0.9×0.9	不 明	位置確認のみで掘り下げず
10	1.3×1.2	"	"
11	1.0×1.0	"	"
12	1.0×1.0	0.17	
13	(0.6+α) × 1.2	0.36	
14	1.5×1.8	1.1	
15	(0.9+α) × 0.9	0.33	柱穴 16 と切り合い
16	1.2×1.2	0.53	柱穴 15 と切り合い
17	1.1×1.2	0.49	
18	1.0×1.6	不 明	位置確認のみで掘り下げず
19	1.0×0.9	0.54	柱穴 20 と切り合い
20	(0.5+α) × 0.9	0.21	柱穴 19 と切り合い
21	(0.8+α) × 1.2	不 明	位置確認のみで掘り下げず
22	(0.7+α) × (0.7+α)	"	"
23	1.3×1.0	0.74	柱穴 24・25 と切り合い
24	(0.7+α) × (0.6+α)	0.74	柱穴 23・25・26 と切り合い
25	(1.0+α) × 1.0	0.78	柱穴 23・24・26 と切り合い
26	1.1×1.1	0.62	柱穴 24・25 と切り合い

## IV 遺物

今回の調査地からの出土遺物は僅少であり、土師器の小片が出土しているけれども、いずれも器形の復原は困難である。

### 施釉皿（第1図-1、図版11-1）

底部より口縁部まで真っすぐに挽き出されている。口径 14.0 cm、器高 2.7 cm を測り、高台は低い。胎土は緻密である。

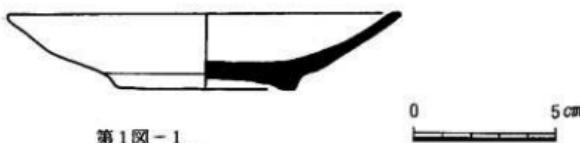
全体に磨滅が著しいけれども、一部淡い黄白色の灰釉が残っている。

### 石錐（図版12-3）

石材はサヌカイトである。縦長の頭部は、一部並列剥離を施していねいな調整を行なっている。錐部断面は菱形である。現存長 3 cm、最大幅 1.5 cm、厚み 0.7 cm である。

### 石鎌（図版12-4・5）

2点出土しており、両者とも石材はサヌカイトである。2点とも凹基無茎式の基本形に近いものである。



## V まとめ

高宮廃寺跡は、白鳳期に創建された古代氏族の寺院跡であり、昭和54年度の範囲確認調査により、廃寺の主要な造構の規模及び位置関係を明らかにすることができた。

今年度の調査では、先に検出した回廊西北隅の西に隣接する延喜式内社高宮大社御祖神社の旧社殿地と伝承される一画を調査し、廃寺の西への広がりと古代における氏寺・氏神の相関関係及び、この氏寺・氏神に直接かかわった古代氏族の住居地との関係を解明することに主眼をおいて実施したものである。

調査の結果、旧社殿と伝承されている一画より2間×3間の掘立柱建物跡の他、多数の柱穴を検出した。この掘立柱建物跡は南面し、建物跡の中軸線はこの地より南約50mの所より南へ延びる旧参道と伝承されている里道上にあたる。この里道の南北線は、旧讃良郡条里の里線に並行するもので、この線上に鳥居跡の伝承を残す地点もある。

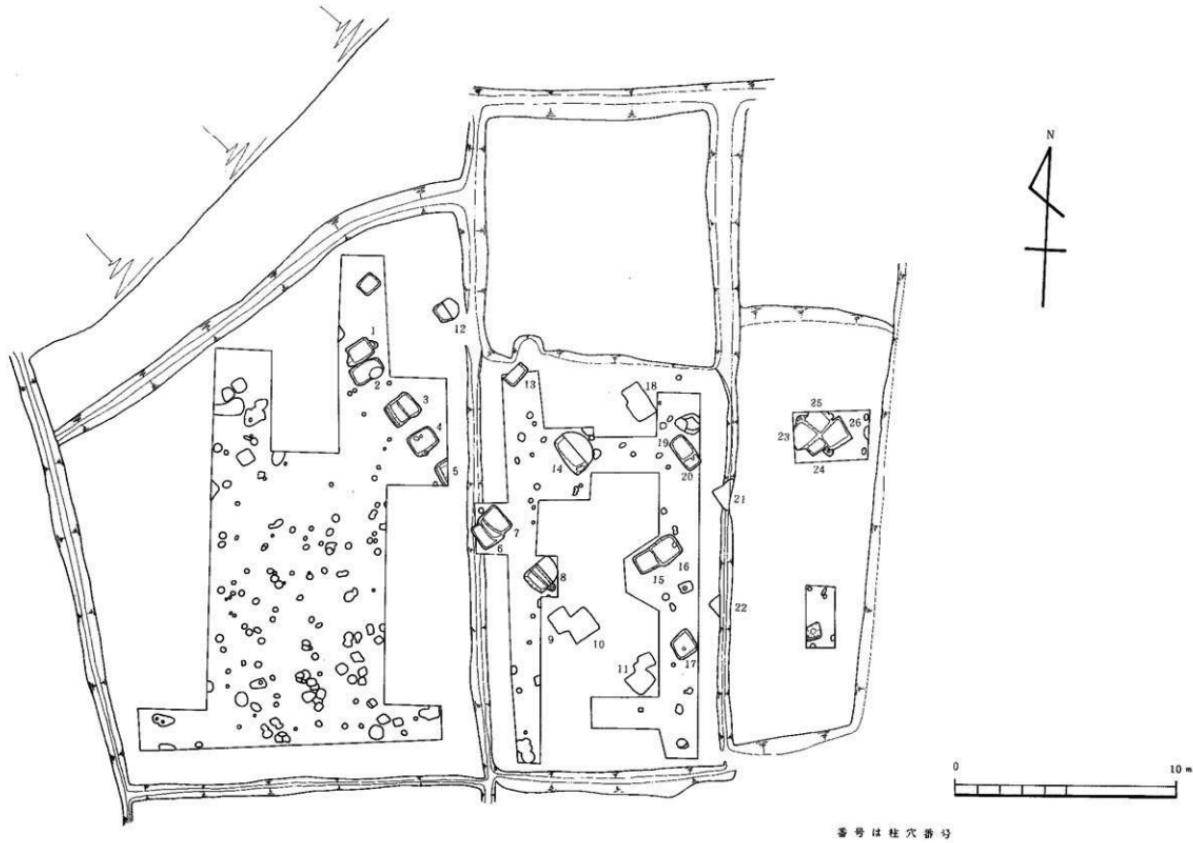
4号掘立柱建物跡については、調査範囲が狭く、トレンチによる調査であったため、全体規模については不明であるが、高宮廃寺を造営した氏族に直接関係のある建物と考えられるが、今後の調査に期待するところが大きい。

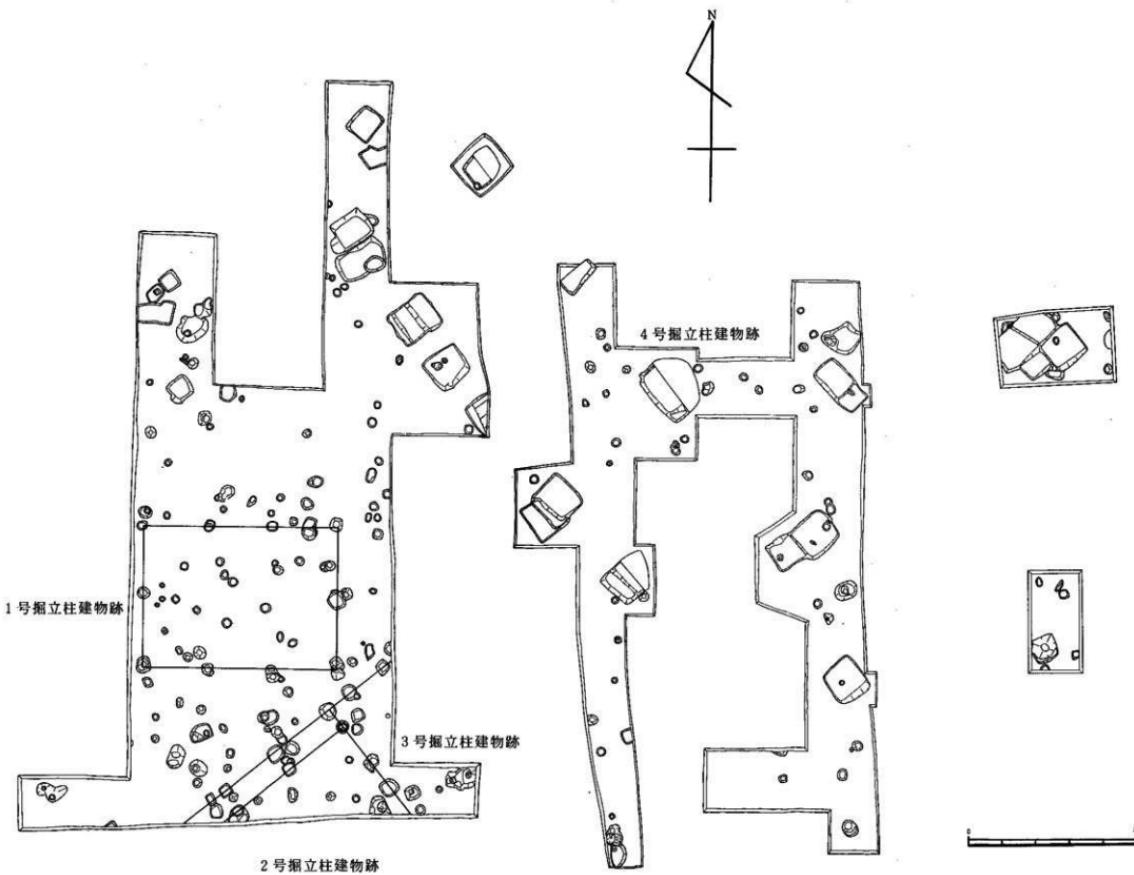
# 図 版

図版1 高宮廃寺周辺遺跡分布図

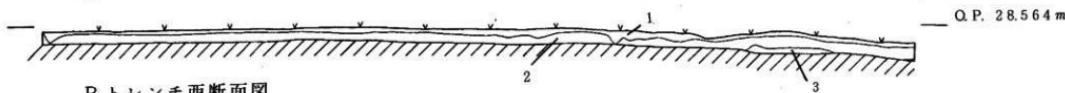


- |                           |                  |                            |                  |                    |
|---------------------------|------------------|----------------------------|------------------|--------------------|
| 1. 三井南遺跡                  | 2. 秦山遺跡          | 3. 池の瀬遺跡                   | 4. 寝屋遺跡          | 5. 寝屋東遺跡           |
| 6. 延喜式内細<br>屋神社           | 7. 回シ塚           | 8. 太秦北遺跡                   | 9. 寝屋南遺跡         | 10. 神宮寺            |
| 11. 出土地<br>太秦遺跡・<br>太秦古墳群 | 12. 太秦廃寺跡        | 13. 太秦1号墳                  | 14. 寝屋古墳         | 15. トノ山古墳          |
| 21. 小路遺跡                  | 17. 延喜式内高<br>宮神社 | 18. 高宮遺跡                   | 19. 史跡高宮廃<br>寺跡  | 20. 延喜式内大<br>社御祖神社 |
| 26. 雷神石                   | 27. 打上(高良)       | 28. 打上神社古<br>墳群            | 24. 打上遺跡         | 25. 弘法井戸           |
| 31. 讀良川遺跡                 | 32. 北口遺跡         | 33. 忍ケ岡古墳<br>・延喜式内<br>忍陵神社 | 29. 史跡石の宝<br>殿古墳 | 30. 讀良寺跡           |
| 36. 岡山南遺跡                 |                  |                            | 34. 坪井遺跡         | 35. 忍ヶ丘駅前<br>遺跡    |

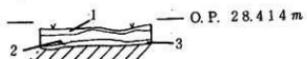




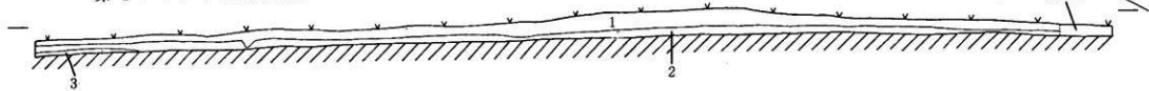
B トレンチ南断面図



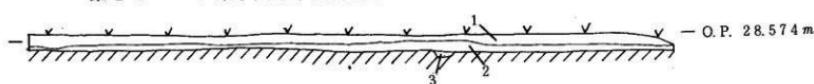
B トレンチ西断面図



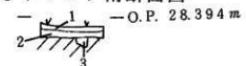
第1 トレンチ西断面図



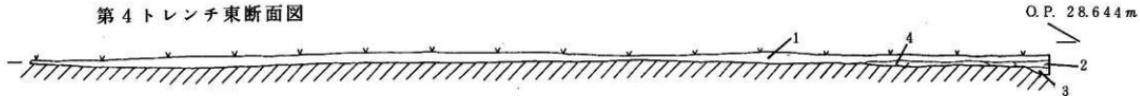
第2 トレンチ東(中央部)断面図



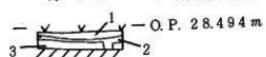
第3 トレンチ南断面図



第4 トレンチ東断面図

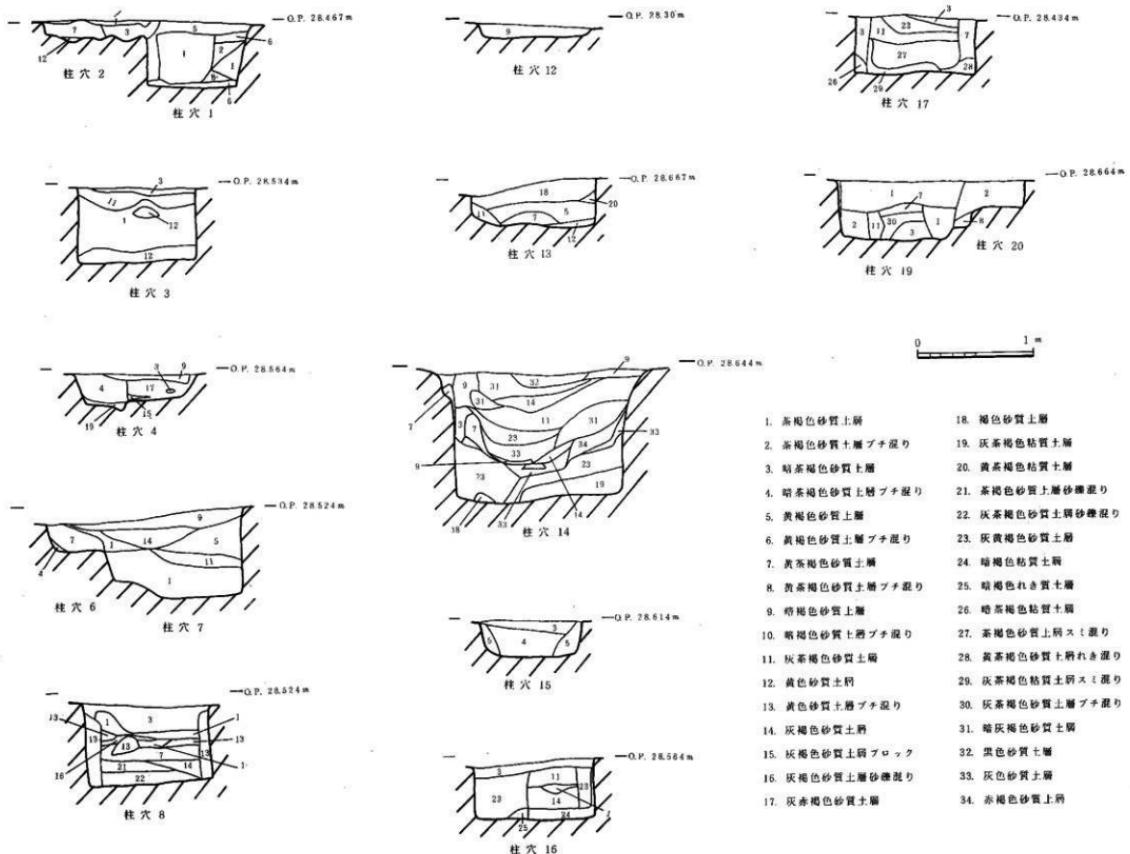


第4 トレンチ南断面図



1. 耕 土
2. 灰褐色砂質土層
3. 灰茶褐色砂質土層
4. 灰黃茶褐色砂質土層

0 5m





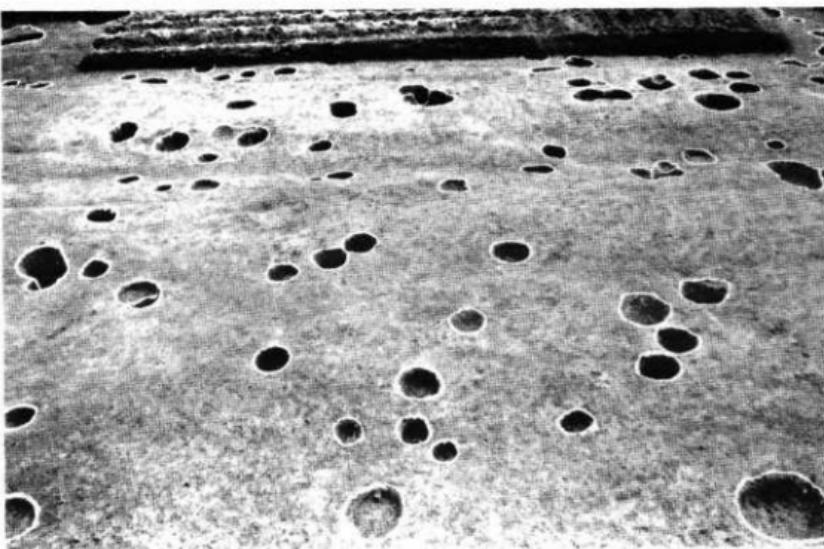
調査地近景（南より）



延喜式内社大社御祖神社



旧社殿伝承地狂穴群



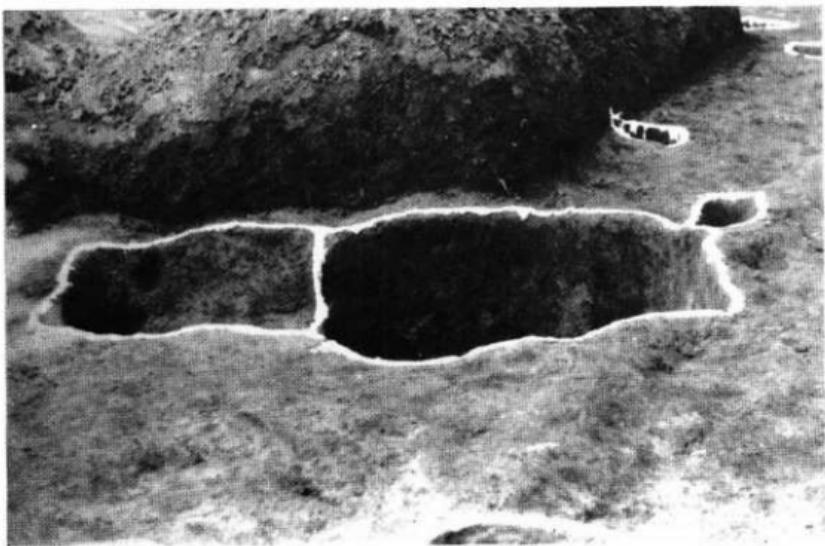
1号掘立柱建物跡



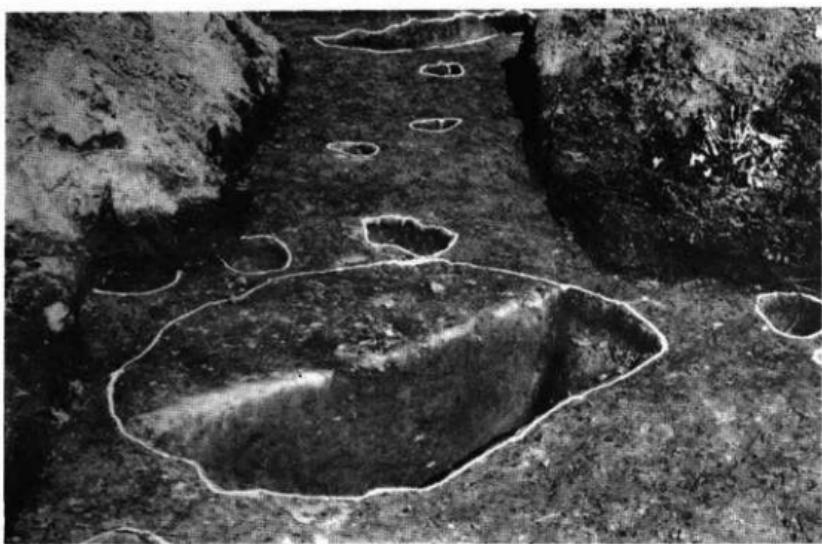
2・3号据立柱建物跡



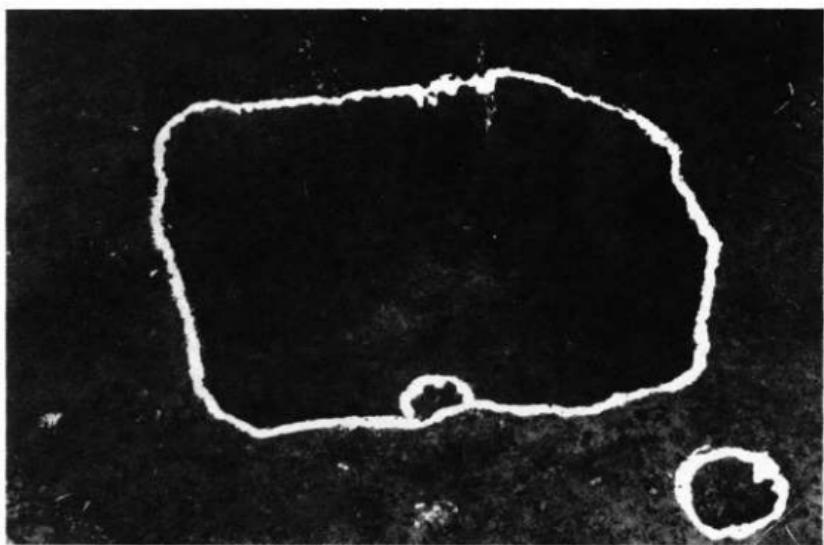
柱穴 1～5



柱穴 15・16



C トレンチ・柱穴 14・19・20



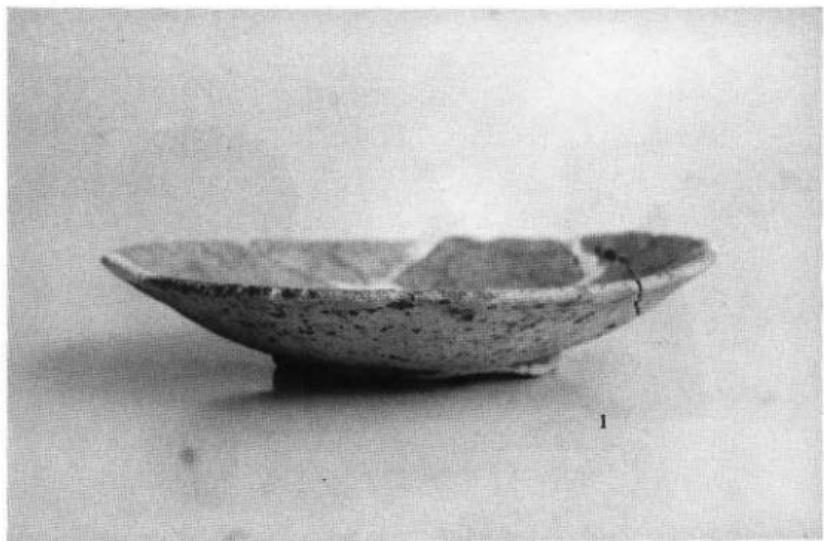
柱穴 17



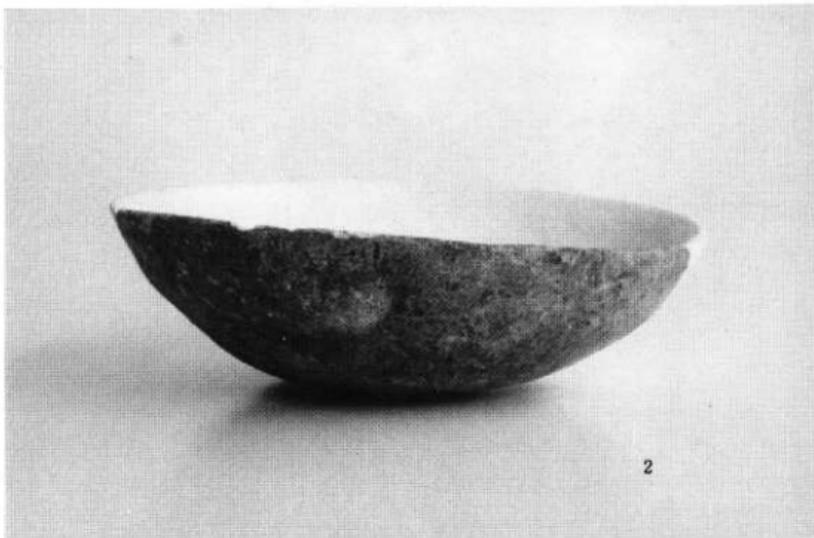
第 4 トレンチ・柱穴 15・16・17・19・20



柱穴 23~26

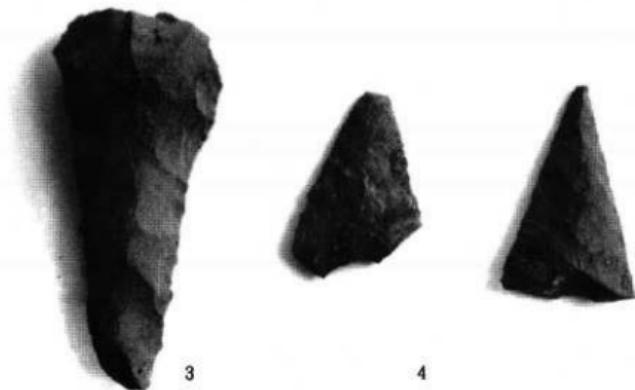


施釉皿



2

瓦器碗



3

4

5

石錐・石鎌

高宮廃寺発掘調査概要報告 II

昭和 56 年 3 月 発行

編集 寝屋川市教育委員会

発行 寝屋川市教育委員会  
大阪府寝屋川市本町1番1号

